

2011年6月30日

株式会社ビジネスブレイン太田昭和

## 会計基盤構築のための新たなソリューションを提供開始 ～ IFRS導入の負担を大幅に軽減 ～

株式会社ビジネスブレイン太田昭和(本社:東京都港区、代表取締役社長 石川俊彦/以下BBS)は、国内企業の国際財務報告基準(IFRS:International Financial Reporting Standards/以下IFRS)、いわゆる国際会計基準導入プロジェクトが本格化する中、企業グループの会計基盤再構築を推進し、経理部署の負担軽減、経営者の説明責任強化を支援するためのソリューション「仕訳 HUB™」を製品化し、9月1日よりサービス提供を開始いたします。

### ■ IFRS強制適用延期の影響について

去る6月21日、金融相は国際会計基準(IFRS)の国内の上場企業への強制適用の延期を正式に表明しました。これにより、対象企業の中でのIFRSに対するトーンは少し下がることが予想されますが、会計基準の国際化、情報開示の早期化という国際標準適用への流れは後戻りすることはありません。特に任意適用を表明している企業に代表される国際的な事業展開を進める企業にとっては、今回の発表の影響は殆どないと思われます。

### ■ 国内企業のIFRS導入準備の現状

IFRSそのものに対する理解が深まるにつれ、企業自身の問題意識に変化が見受けられます。IFRS自体が刻々と改訂されるムービングターゲットであるものの、すでに多くの企業が適用に向けての影響分析を終え、具体的課題として認識され、実際の対応に向けてより具体的な施策の検討が始まっています。

その中で各企業のアドプション対応の検討に伴い、グループ経営における問題点が再び顕在化していることが、これまでの当社のコンサルティング事例やセミナーを通じて浮き彫りになっています。それらはIFRS対応の議論にかかわらず従来から各社が抱えているグループ経営管理に関する諸課題であり、具体的には次のようなものです。

- (1) 決算期統一・会計方針統一の課題
- (2) 会計情報の整備・統合の課題
- (3) 製商品、顧客、得意先などのコード体系の整備・統合に関する課題
- (4) 有形資産と減価償却制度、棚卸資産と原価計算制度の見直しに関する課題
- (5) 従来の経営管理(管理会計)の仕組みに関する課題

### ■ IFRS適用における二つのゴール

本来はIFRS導入を機にこれらの諸課題へ抜本的に対処する取り組みがベストですが、これらの課題解決には時間・労力・コストが膨大となる可能性があり、震災後の厳しい経営環境の中ではIFRS対応のために最低限必要なグループ経営管理に関する諸課題を選定・対処する方針が現実的です。当社はIFRS対応の現実解として次の二つの段階があり、それぞれのゴール設定があると想定しています。

第1段階: グループ経営における基本的課題を解消し、IFRS導入の障害を軽減する段階  
(基幹システム連携、コード統一、連結データ収集、などの対応)

IFRS導入以前に、まずお客様の会計基盤構築を支援いたします。

結果としてIFRSへの対応がスムーズに実現でき、お客様の負担を最小限にすることができます。

第2段階: IFRSのアドプション導入に対するプロジェクトを推進する段階

(IFRS組替え、外付けIFRS対応、グループ共通IFRS元帳、などの対応)

IFRS固有の基幹システムへの対応をいたします。

複数基準対応

複数財務諸表

遡及処理

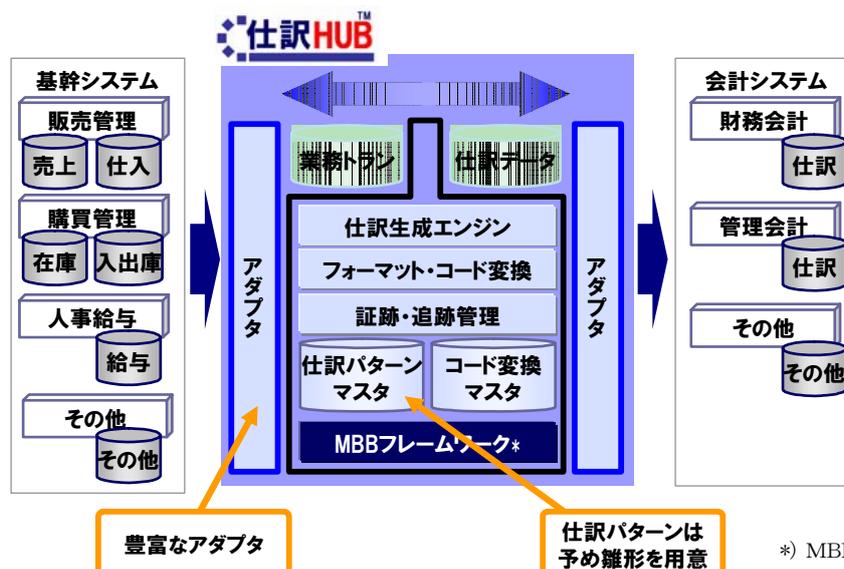
そして、この2段階のプロジェクトを支援するソリューションとして

- ◆ 仕訳 HUB™ ソリューション
- ◆ マルチスタンダード元帳テンプレート

を提供して参ります。

## ■ 仕訳HUB

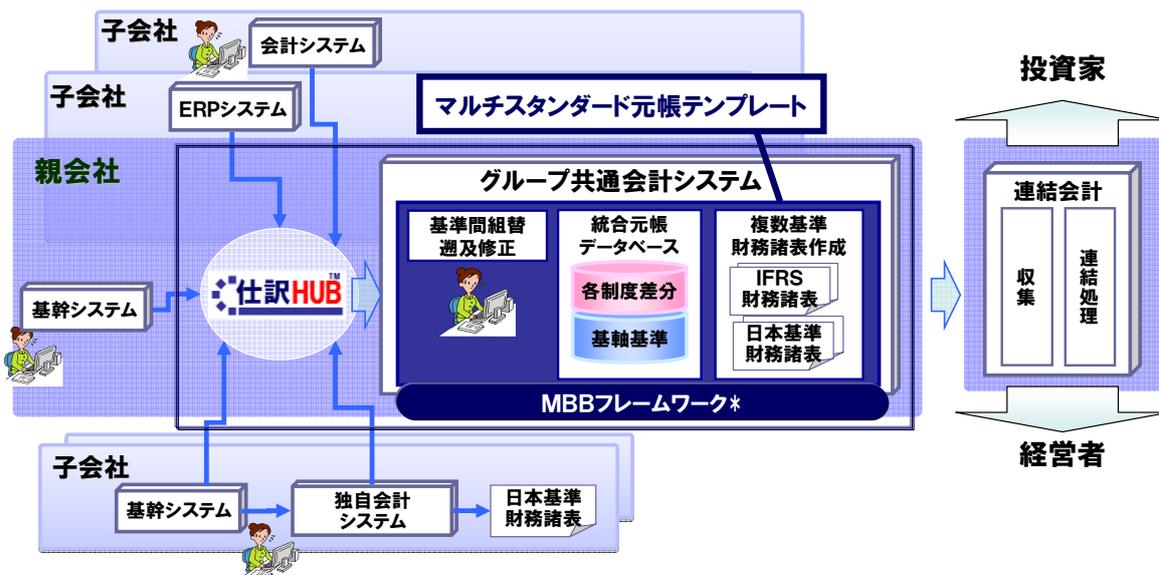
仕訳 HUB™ は企業グループにおけるさまざまな基幹システムと連携し、上流システムで発生する取引情報、あるいは仕訳情報を集約し、会計システムが要求する仕訳データを一元的に作成し受け渡すシステムです。またIFRSを見据えた導入に対応し、当社のノウハウを集約したIFRS仕訳パターンテンプレートが標準装備されますので、お客様のIFRS導入負担を軽減することができます。また、グループ経営の阻害要因であるコード体系、マスタの問題も MBB® のアドオン機能でコード変換を統合管理し、将来的な統合マスタ管理を実現します。



\*) MBBは当社の登録商標です。

## ■ マルチスタンダード元帳テンプレート

マルチスタンダード元帳は複数会計制度・会計基準のデータを同時に管理する機能を持った元帳システムです。IFRSへ適用する場合には、現行ローカル基準とIFRSを一元管理することができ、基準間組替、遡及修正、複数基準財務諸表作成等のIFRS対応に必要な機能を実装しています。現行の会計システムや基幹システムを有効に活用し、IFRS対応の負荷を大幅に軽減できます。



## ■ BBSのトータルソリューション

当社は、コンサルティングからシステム構築、業務の定着化、アウトソーシングまでを一貫してサポートすることで、IFRS強制適用後を見据えたお客様のビジネスを永続的にご支援します。

従いまして、これら二つの製品につきましても、当社のトータルソリューションに組み入れることにより、お客様は潜在的なグループ経営に関する諸課題を解決することができます。(4頁:適用例) 製品の導入、業務への適用方法につきましては、40数年に渡る会計システム構築で培ったノウハウに基づいた豊富なコンサルティング・メニューを併用し、業務の標準化、効率化、精度向上への取り組みをご支援して参ります。ご支援に際しましては、公認会計士を中心とした会計のプロフェッショナルが、お客様の経理部門/監査法人と情報システム部門の間に立ち、グループ経営の基盤となる情報システムの構築をスムーズに進めていくことが可能です。

## ■ 販売計画

ライセンス販売、コンサルテーション、関連SIを含め、4年間で15億円の売上を目指します。

## ■ 本ソリューションに対するお問い合わせ先

株式会社ビジネスブレイン太田昭和

営業統括本部 担当:長尾

Tel:03-5730-3611 Fax:03-5439-2622

## 適用例① 基幹システム連携

既存システムを改修することなく、複数の基幹システムと会計システム間のインターフェイスを統合し、仕訳生成機能の集中化を実現します。



## 適用例② マスタコード連携

グループ経営に求められるグループ統合元帳の基礎データである取引先や商品コード等のマスタ情報を、管理用途に合わせてコード連携し、将来的な統合マスタ管理を実現します。



## 適用例③ グループ統合元帳

既存システムを改修することなく、グループ会社の業務トラン情報から仕訳を生成し、グループ統合元帳を構築します。マネジメントアプローチやシェアードサービスなどの会計情報基盤を実現します。



## 適用例④ 連結データ連携

グループ内の異なる会計システムからデータを収集し、連結情報を生成します。さらに、基幹システムとの連携によりグループ管理連結の基盤を実現します。



## 適用例⑤ IFRS対応

仕訳HUBとマルチスタンダードソリューションの組み合わせにより、既存システムを有効活用したIFRS対応が可能です。Local基準、IFRS基準の仕訳を生成し、複数基準の元帳情報を蓄積するなど、IFRS対応に必要な基本機能を提供します。

